

2018年(平成30年)3月期 第2四半期決算説明会

長瀬産業株式会社
2017年11月28日

Copyright © 2017 NAGASE & CO., LTD.

目次

- 2018年3月期 第2四半期決算概況 P. 3
- 2018年3月期 通期業績見通し P. 14
- 中期経営計画「**ACE-2020**」の進捗 P. 21
- グレーターチャイナにおけるビジネスについて P. 24
- (参考資料)セグメント別概況 P. 32

2018年3月期 第2四半期決算概況

連結損益計算書

第2四半期連結累計期間において、売上高・各利益ともに過去最高を更新

- 売上高：全セグメントともに好調に推移したことに加え、円安の影響等もあり、全体として増収
- 営業利益：事業収益の伸長に加え、退職給付会計における数理計算上の差異の償却額が減少し、増益

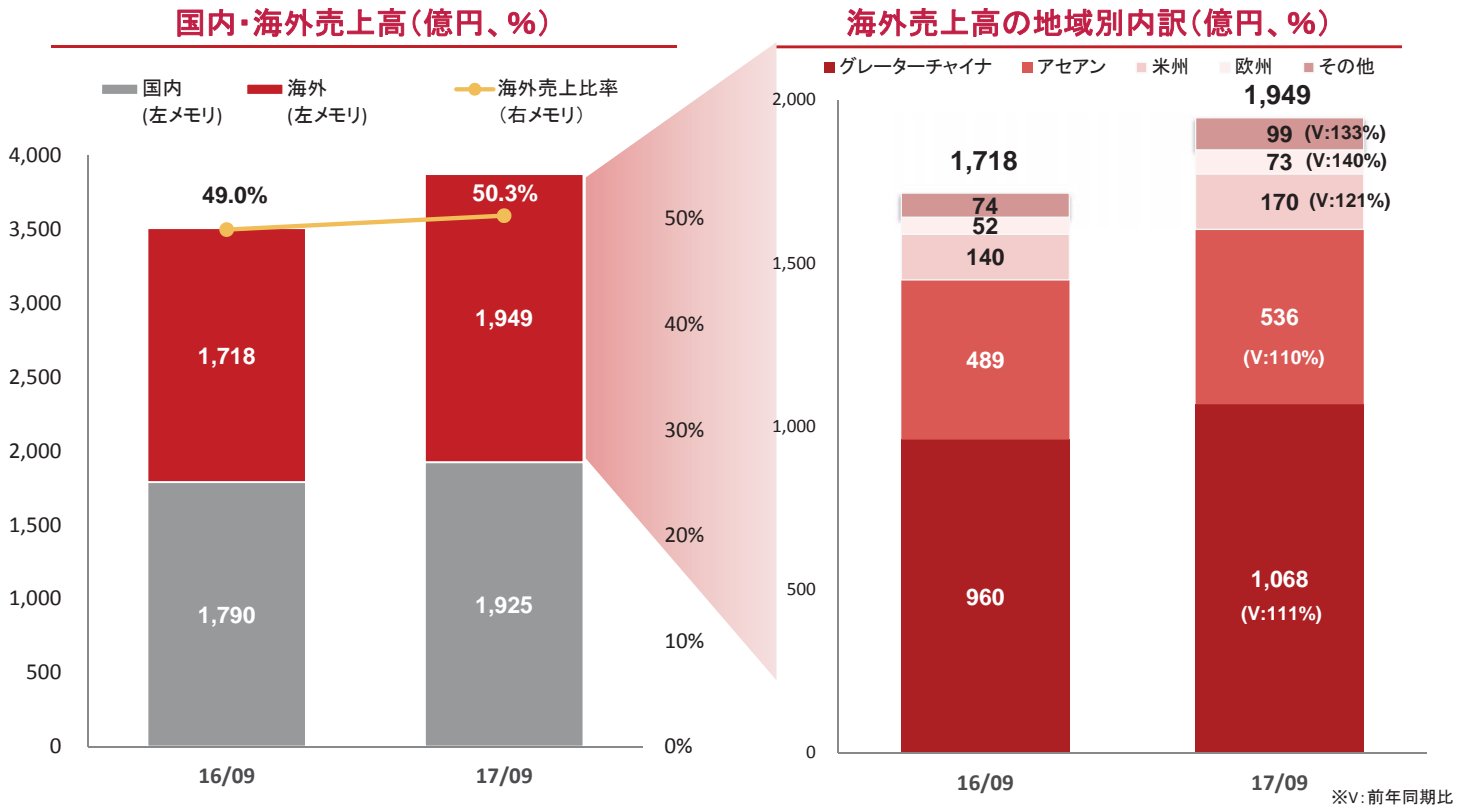
(単位:億円)

	16/09	17/09	増減額	前年同期比	通期見通し (期初公表)
売上高	3,508	3,875	+366	110%	7,320
売上総利益	446	502	+55	112%	950
<利益率>	12.7%	13.0%	+0.2%	—	13.0%
販売費及び 一般管理費	374	376	+1	100%	759
営業利益	72	126	+53	174%	191
経常利益	74	138	+63	184%	209
親会社株主に帰属する 四半期純利益	46	87	+40	187%	125
US\$レート (期中平均)	@105.3	@111.0	@5.8円安		@108
RMBレート (期中平均)	@15.9	@16.4	@0.5円安		@15.6

【為替変動による17/09期実績 売上高および営業利益への影響額】
売上高:約+100億円 営業利益:約+2.8億円

【1円変動当たり影響額(年間)】
売上高US\$:約15億円 営業利益US\$:約0.2億円
RMB :約74億円 RMB :約2.5億円

■国内ならびに海外の全地域において増収(海外売上比率50.3%)

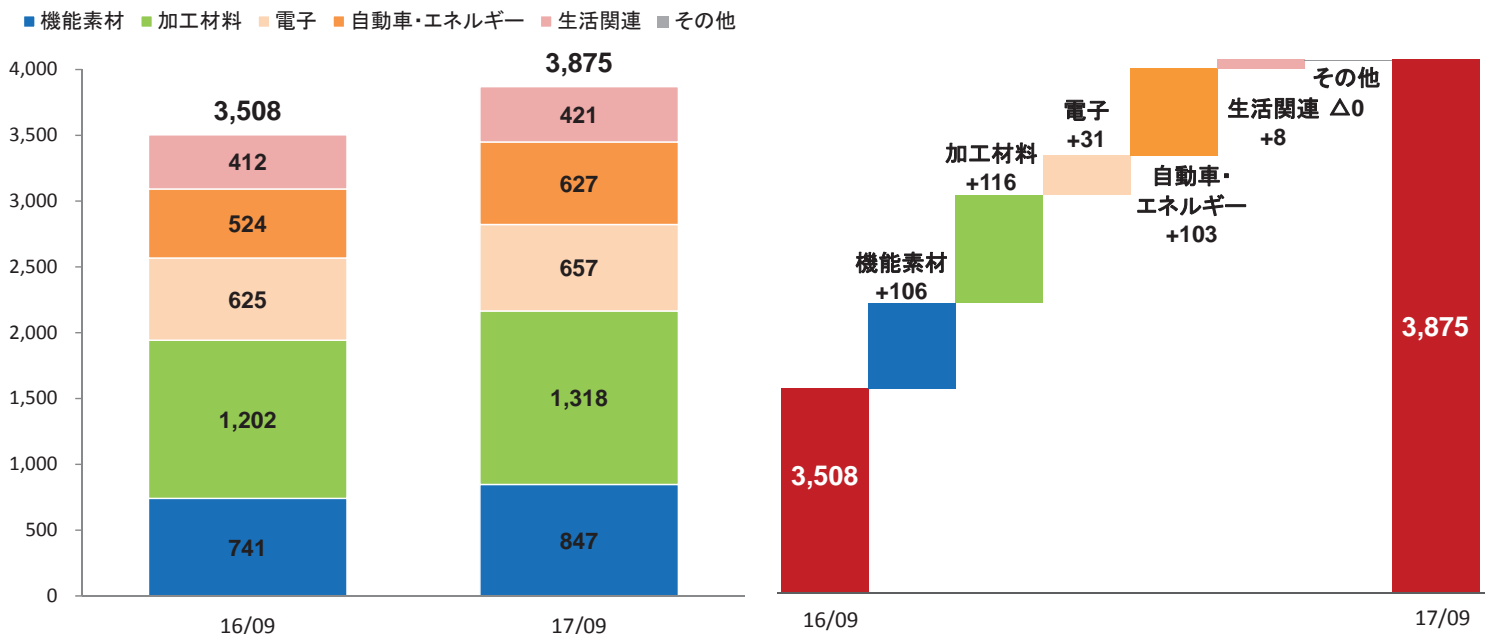


セグメント別売上高2期比較

- 機能素材：自動車生産台数の堅調な推移による塗料原料およびウレタン原料の売上、また半導体用途フッ素ケミカル等の売上が増加し、更に米スペシャリティケミカル・ディストリビューター「Fitz Chem Corp.」を買収し新規連結したこと等もあり、全体で増収
- 加工材料：国内外において、新規ビジネスの獲得等もあり、合成樹脂等の売上が増加し、増収
- 自動車・エネルギー：自動車の電気・電子化に伴い、エンジニアリングプラスチックおよびカーエレクトロニクス関連部材の販売が増加し、増収

セグメント別 売上高(億円)

セグメント別 売上高増減(億円)

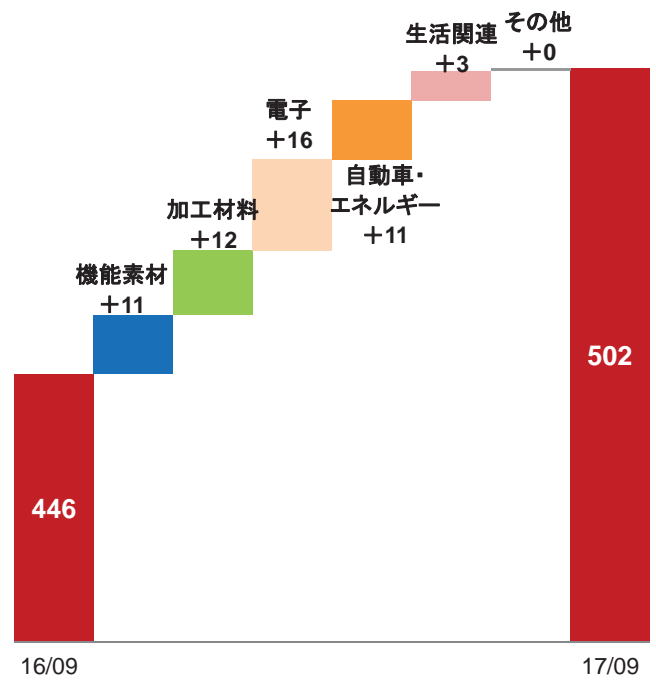
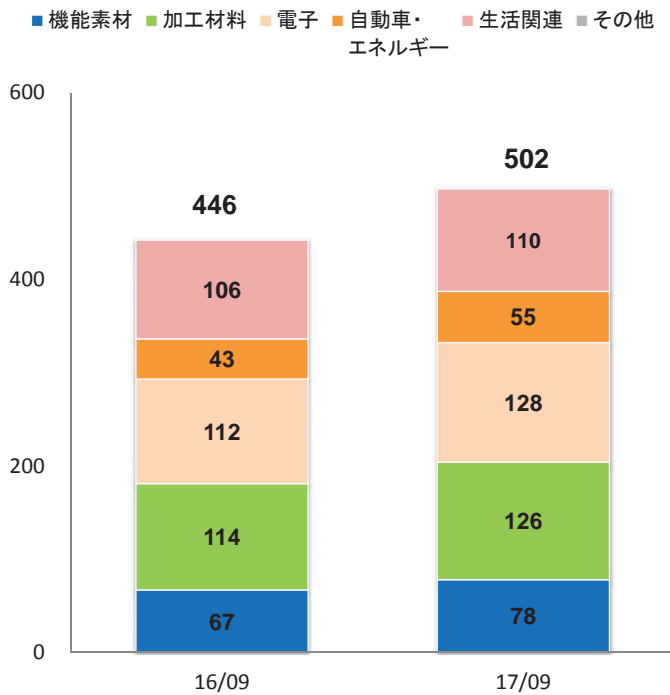


セグメント別売上総利益2期比較

■電子セグメントを中心に高収益ビジネスの増加等により利益率向上(利益率0.2%向上)

セグメント別 売上総利益(億円)

セグメント別 売上総利益 増減(億円)

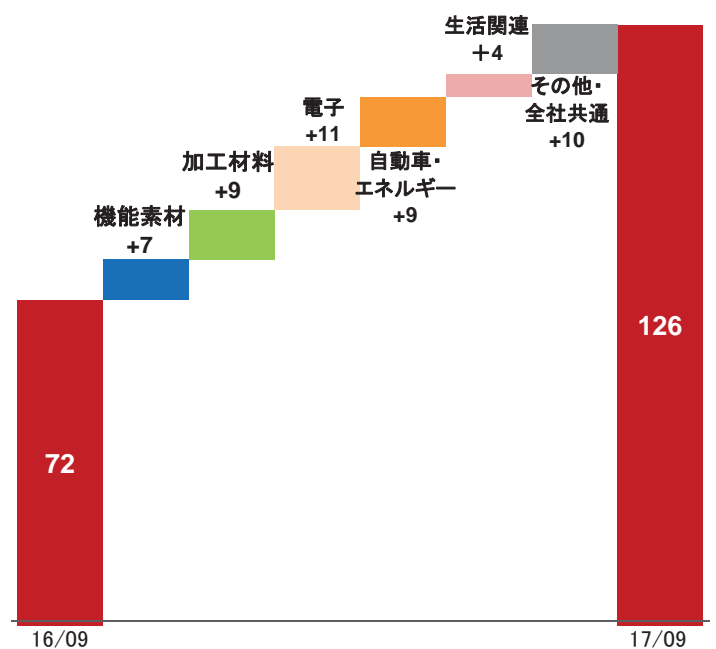
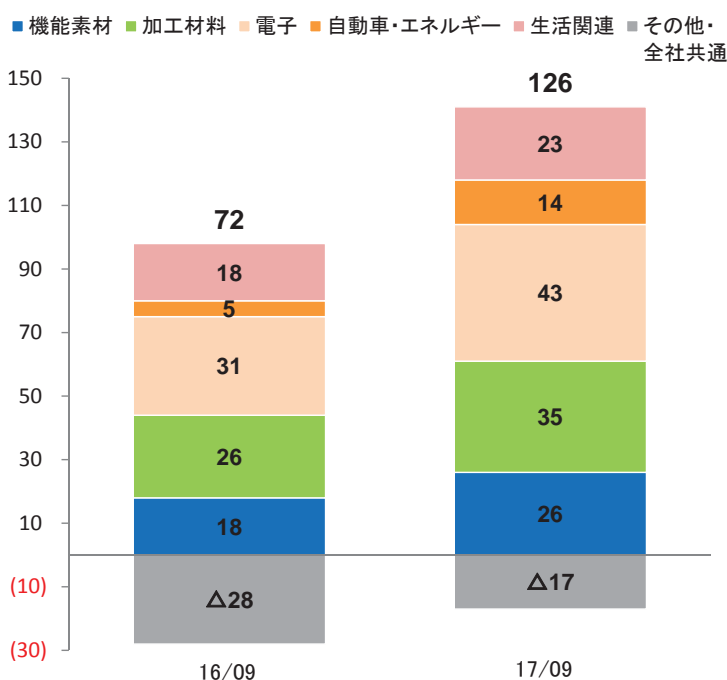


セグメント別営業利益2期比較

■全セグメントが増収となったことに加え、電子および加工材料セグメントを中心とした製造子会社の増益等が寄与
 ■上記に加え、主に全社共通セグメントの退職給付会計における数理計算上の差異の償却額が減少し、全体として53億円の増益

セグメント別 営業利益(億円)

セグメント別 営業利益 増減(億円)



- 長瀬産業単体は、売上が増加したことに加え、退職給付会計における数理計算上の差異の償却額が減少し、増益
- ナガセプラスティクスは、新たな商権の獲得および電子業界向けスーパーエンジニアリングプラスティック等の販売が増加したこと等により、増収増益

(単位:億円)

社名		売上高	前年同期比	営業利益 ^(注2)	前年同期比
単体	長瀬産業	2,192	106%	24	-%
製造会社	林原	121	102%	26	107%
	ナガセケムテックス	129	101%	14	90%
	製造会社計 ^(注1)	513	111%	55	121%
国内販売会社	ナガセプラスティクス	173	113%	4	133%
	西日本長瀬	38	104%	1	67%
	ナガセケミカル	91	118%	1	105%
	国内販売会社計 ^(注1)	446	111%	12	137%
海外販売会社	Nagase (Thailand) Co., Ltd.	183	117%	5	141%
	上海華長貿易有限公司	196	113%	5	99%
	上海長瀬貿易有限公司	210	128%	4	189%
	海外販売会社計 ^(注1)	1,845	114%	48	144%

※(注1) 各カテゴリの合計は、対象会社の単純合算値であり、連結決算数値と一致いたしません。
 ※(注2) 営業利益は、のれん及び技術資産償却前の数値となります。

主要製造子会社2社の状況

- 林原: AA2G®の売上は減少するものの、トレハ®の販売が欧州を中心に増加し、更に林原ヘスペリジン®sやファイバリクサ™等の高機能素材商品の新規採用等も寄与し、増収増益
- ナガセケムテックス: 一部事業が低調に推移したものの、フォトリン材料事業の売上が好調に推移し、増収。営業利益は、プロダクトミックスの悪化等により微減

林原

(単位:億円)

	16/09	17/09	増減額	前年同期比
売上高	118	121	+2	102%
営業利益	24	26	+1	107%

- ・トレハ®は、特に欧州を中心に海外販売が増加し、増収
- ・AA2G®は、国内はインバウンド需要の取り込み等により主要顧客向けに販売は増加したものの、海外販売が減少し、減収
- ・林原ヘスペリジン®sおよびファイバリクサ™等の高機能素材商品が食品業界向けに新規採用され、売上が増加
- ・医療・健康食品用ハードカプセルおよび口中清涼フィルム向けにブルランの売上が増加

ナガセケムテックス

(単位:億円)

	16/09	17/09	増減額	前年同期比
売上高	127	129	+1	101%
営業利益	16	14	△1	90%

- ・変性エポキシ樹脂事業は、重電・弱電向けに好調に推移したものの、スマホに搭載される電子部品封止用エポキシ樹脂等が在庫調整に入り、売上は微減
- ・フォトリン材料事業は、新規案件獲得によるシェアアップおよび顧客稼働率向上等により、増収
- ・機能化学品事業は、LCD業界向け導電性材料等の販売が低調に推移し、減収
- ・生化学品事業は、新製品の採用遅延等により、売上は横ばい

連結貸借対照表

■資産：売掛金・たな卸資産の増加および時価上昇による投資有価証券の増加等により、486億円増加

■純資産：親会社株主に帰属する四半期純利益87億円の計上のほか、その他有価証券評価差額金の増加等により、139億円増加

■自己資本比率は、2.2ポイント減少し、52.5%

資産				負債及び純資産			
	17/03	17/09	増減額		17/03	17/09	増減額
流動資産	3,212	3,577	+365	流動負債	1,664	1,912	+247
現金・預金	398	442	+43	支払手形・買掛金	1,020	1,195	+174
受取手形・売掛金	2,068	2,315	+247	短期借入金、1年内償還予定の社債	416	473	+56
たな卸資産	631	708	+77	その他	227	244	+16
その他	114	110	△3	固定負債	690	790	+99
固定資産	2,095	2,217	+121	長期借入金、社債	400	464	+63
有形固定資産	676	684	+8	退職給付に係る負債	146	145	△1
無形固定資産	407	434	+27	その他(繰延税金負債等)	143	180	+36
投資・その他の資産合計	1,011	1,098	+86	負債合計	2,355	2,702	+347
投資有価証券	945	1,034	+89	純資産	2,951	3,091	+139
その他	66	63	△3	株主資本	2,396	2,458	+61
				その他の包括利益累計額	505	582	+76
				その他有価証券評価差額金	476	538	+61
				為替換算調整勘定	31	45	+14
				その他	△2	△1	+1
				非支配株主持分	49	51	+1
資産合計	5,307	5,794	+486	負債及び純資産合計	5,307	5,794	+486

連結キャッシュ・フロー

■営業CF+65億円(税引前利益+130億円等)、投資CF▲102億円(連結の範囲の変更を伴う子会社株式取得 ▲60億円等)、財務CF+73億円(借入金収支+132億円、社債の償還▲100億円等)に換算差額影響等を加味した結果、全体として40億円の資金の増加

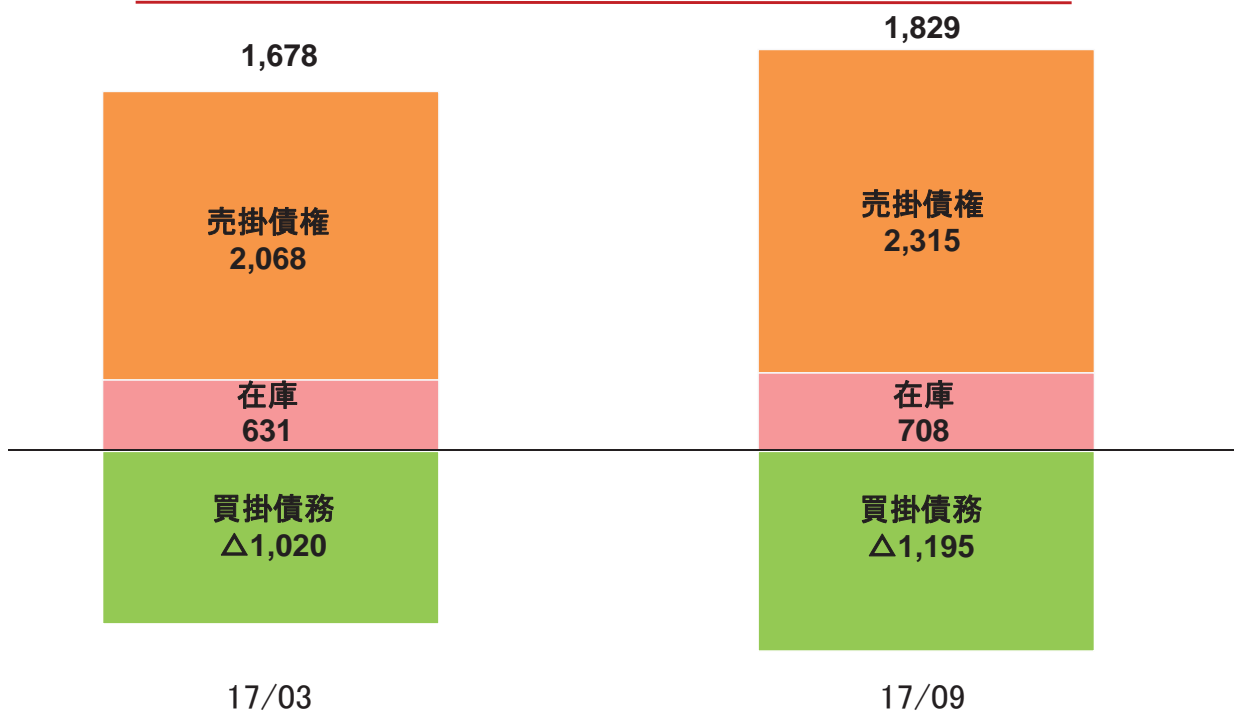
キャッシュ・フローの状況

(単位:億円)

	17/09	主な内訳	16/09
営業活動によるキャッシュ・フロー	65	税引前利益 +130 減価償却費・のれん償却 +54 運転資金 ▲117 法人税等 ▲25	47
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲102	有形固定資産の取得による支出 ▲34 無形固定資産の取得による支出 ▲1 投資有価証券の取得による支出 ▲3 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出 ▲60	▲52
財務活動によるキャッシュ・フロー	73	短期借入金の純増減額(▲は減少) +90 コマーシャル・ペーパーの純増減額(▲は減少) +70 長期借入金収支 +41 社債の償還による支出 ▲100 配当金の支払 ▲21	▲23
現金および現金同等物に係る換算差額	4		▲20
現金および現金同等物の増加額(▲減少額)	40		▲48
現金および現金同等物の期首残高	397	日本 254、グレーターチャイナ 70、アセアン 35、欧州 18、米州 5、その他 13	429
現金および現金同等物の四半期末残高	438	日本 262、グレーターチャイナ 77、アセアン 44、欧州 23、米州 11、その他 13	380

■売上増加等の影響により、運転資金は150億円増加

運転資金（億円）



2018年3月期 通期業績見通し

売上高・各利益ともに、過去最高を更新する見通し

■売上高：下期は一部事業で減速を見込むものの、全体的に上期に引き続き好調に推移し、通期で増収

■営業利益：事業収益の増加に加え、退職給付会計における数理計算上の差異の償却額が3億円(前期比損益影響額+28億円)となることから増益

(単位:億円)

	17/03	18/03			
	実績(A)	期初見通し(B)	修正見通し(C)	増減額(C-A)	前期比(C/A)
売上高	7,223	7,320	7,710	+486	107%
売上総利益	915	950	1,000	+85	109%
<利益率>	12.7%	13.0%	13.0%	+0.3%	-
販売費及び一般管理費	764	759	765	+1	100%
営業利益	150	191	235	+84	156%
経常利益	163	209	255	+91	156%
親会社株主に帰属する当期純利益	103	125	160	+56	155%
US\$レート(期中平均)	@108.4	@108.0	@111.0	2.7円安	-
RMBレート(期中平均)	@16.1	@15.6	@16.4	0.3円安	-

セグメント別売上高見通し

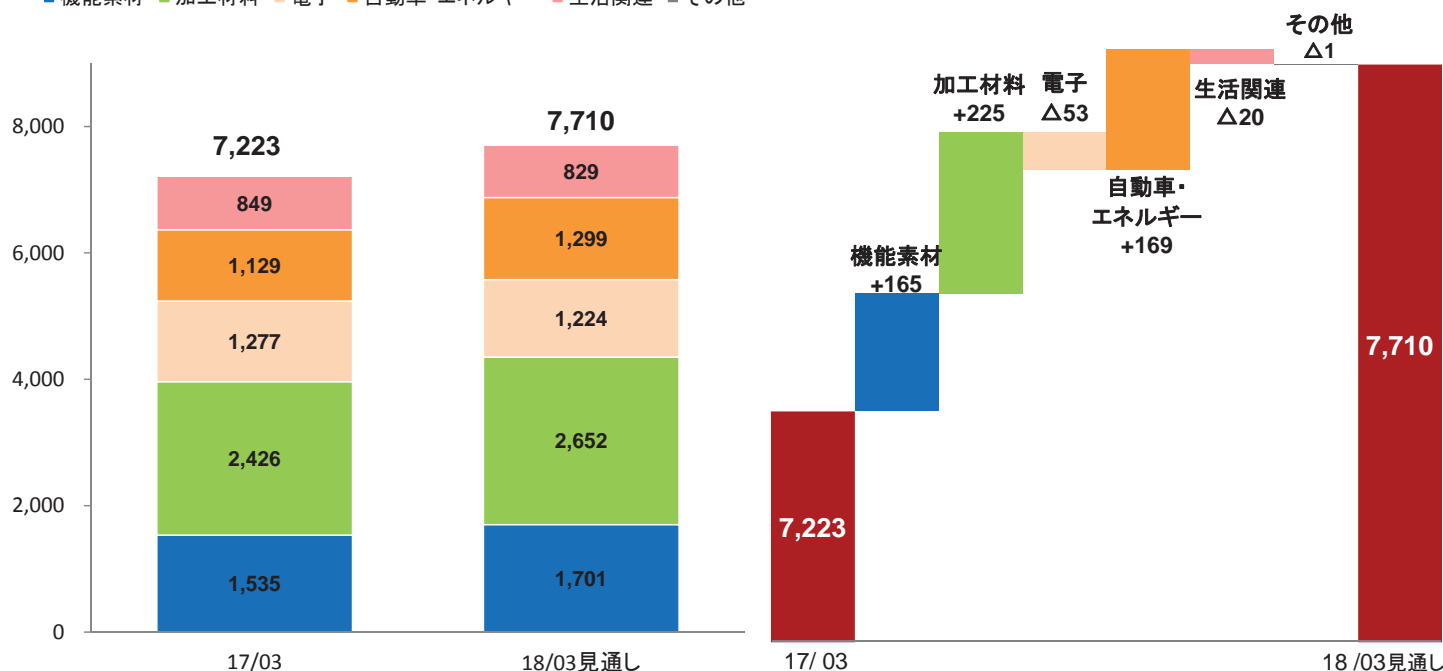
■加工材料：国内における新たなビジネスの獲得や海外における新規サプライヤーとの取組みによるビジネスの拡大等により、OA・ゲーム機器・電子業界等に向けた合成樹脂の販売等が好調に推移し、増収

■自動車・エネルギー：自動車の電気・電子化に伴う需要を取り込み、エンジニアリングプラスチックの販売が増加し、更にカーエレクトロニクス関連部材等の販売が好調に推移し、増収

セグメント別 売上高(億円)

セグメント別 売上高 増減(億円)

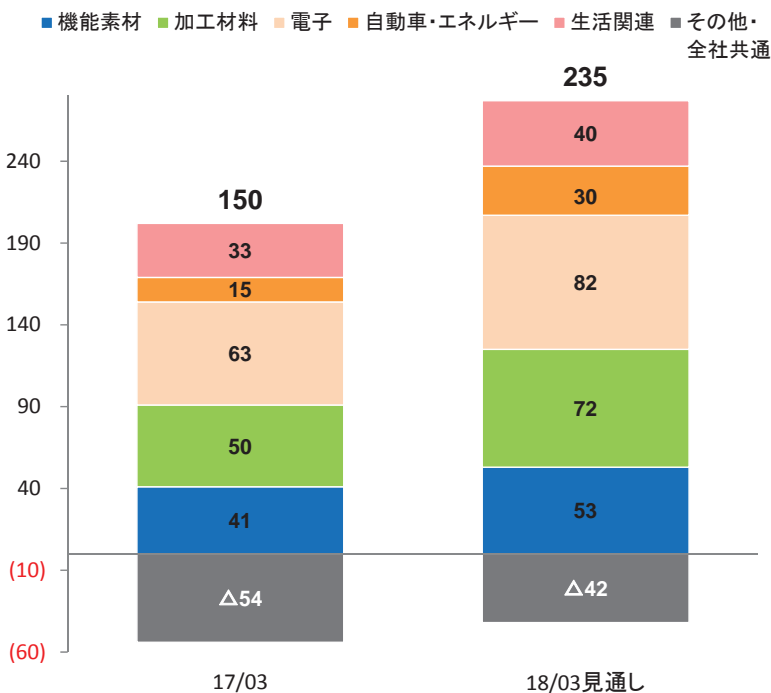
■機能素材 ■加工材料 ■電子 ■自動車・エネルギー ■生活関連 ■その他



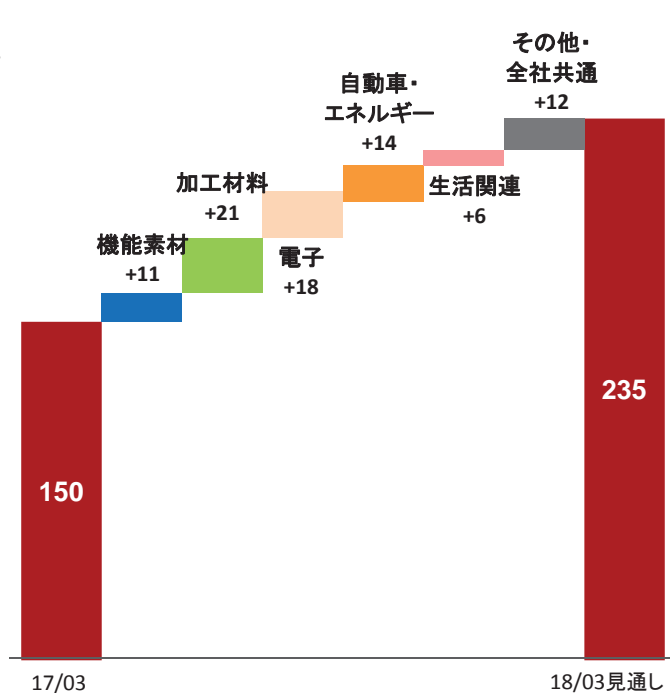
セグメント別営業利益見通し

■事業収益の増加に加え、退職給付会計における数理計算上の差異の償却額が3億円(前期比損益影響額+28億円)となることから増益

セグメント別 営業利益 (億円)



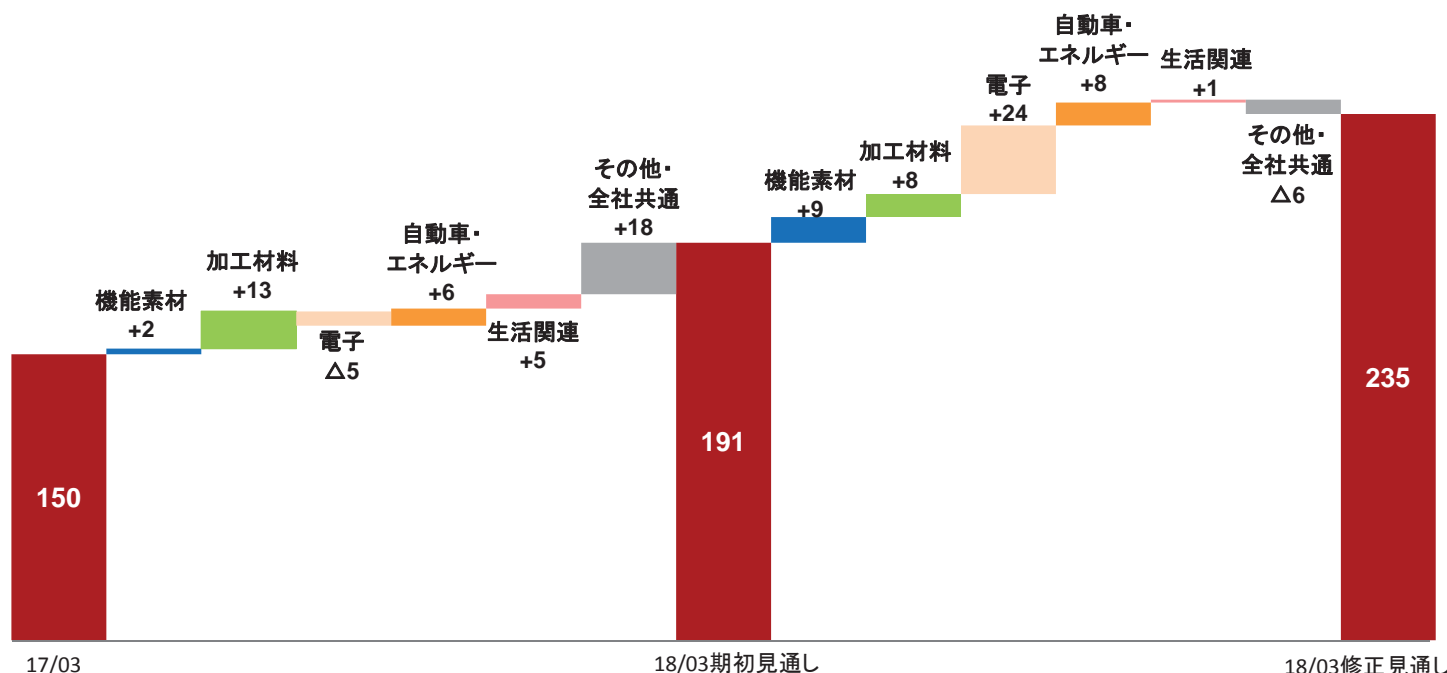
セグメント別 営業利益 増減(億円)



営業利益増減要因(前期実績vs期初見通しvs修正見通し)

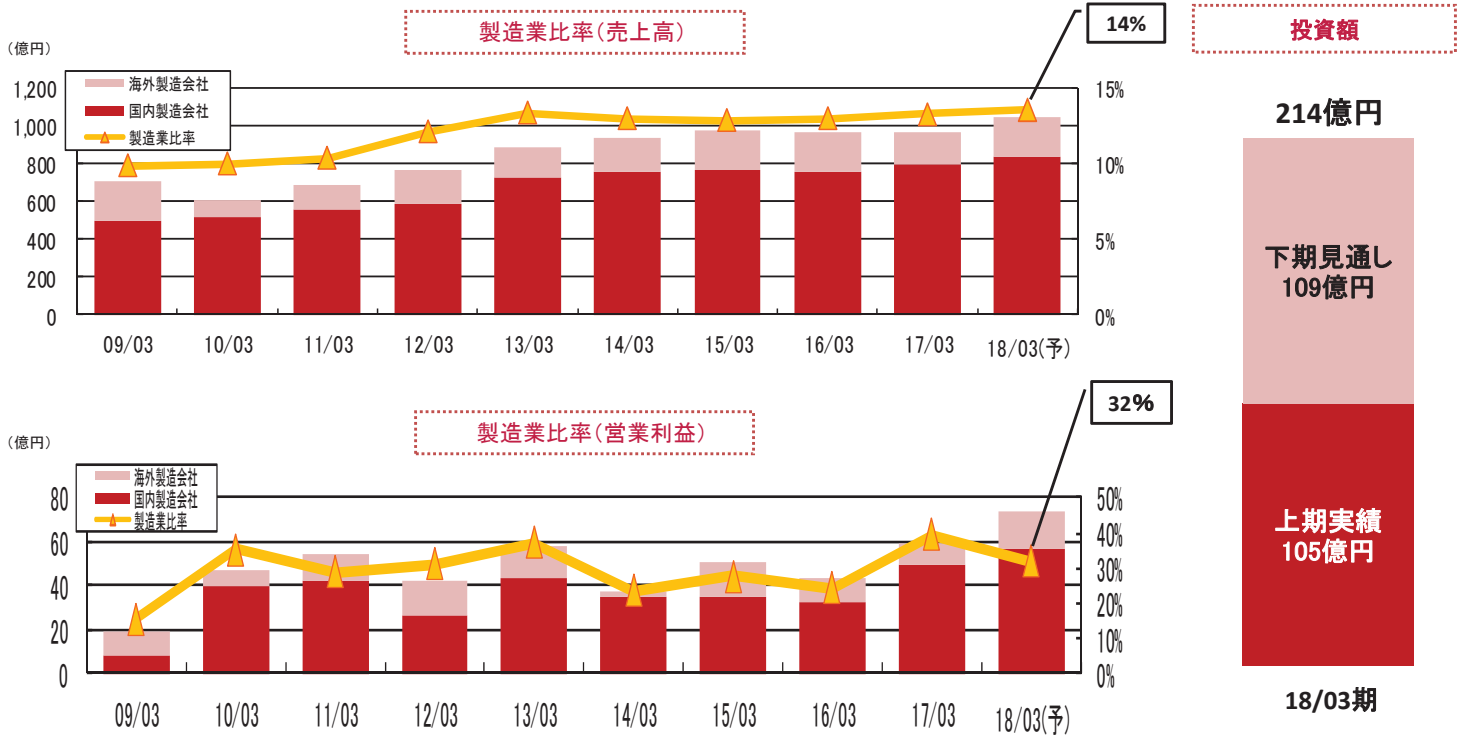
■円安や電子・自動車業界の需要が旺盛だったことに加え、中期経営計画「ACE-2020」での施策の中で、商社事業において新たなビジネスが創出され、また不採算事業の構造改革等による改善および撤退含め製造事業の収益が増加し、期初の想定以上に収益が増加する見通し

セグメント別 営業利益 増減(億円)



投資実績および製造業比率

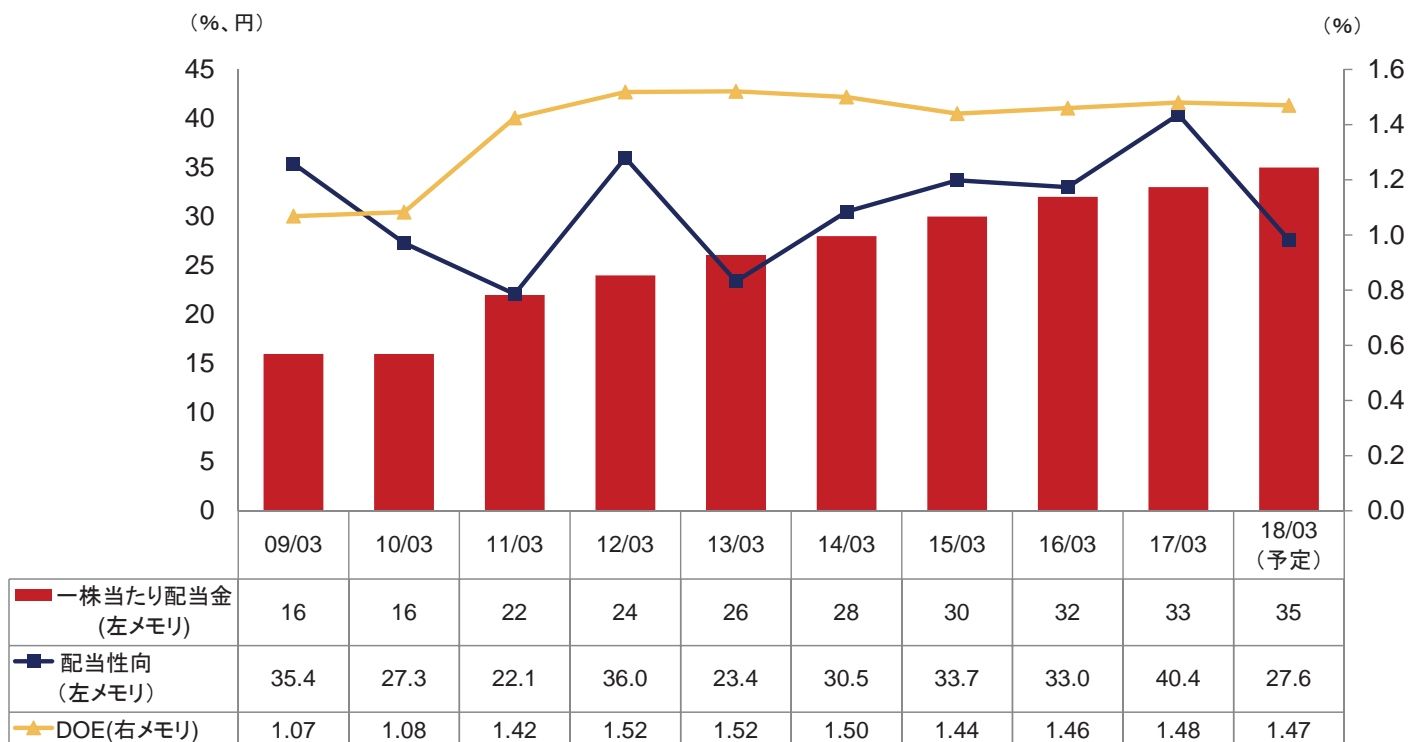
■中期経営計画「ACE-2020」において注力領域として掲げるライフ&ヘルスケアおよびエレクトロニクスを中心とした成長投資を行い、独自性・優位性を創出し、企業価値の向上を図っております。



配当状況

■8期連続増配予定

■当期: 中間配当金17円、期末配当金18円の年間配当金35円を予定(2円の増配)



※18/03 期の期末配当金は、2018年6月開催予定の株主総会にて付議予定

中期経営計画「ACE-2020」の進捗

Accountability(主体性)・ Commitment (必達)・ Efficiency(効率性)

中期経営計画「ACE-2020」の進捗

- 資産入替による収益構造の取組みが加速
- 間接部門集約によるグループ業務効率化と戦略機能向上を目指す

収益構造の変革

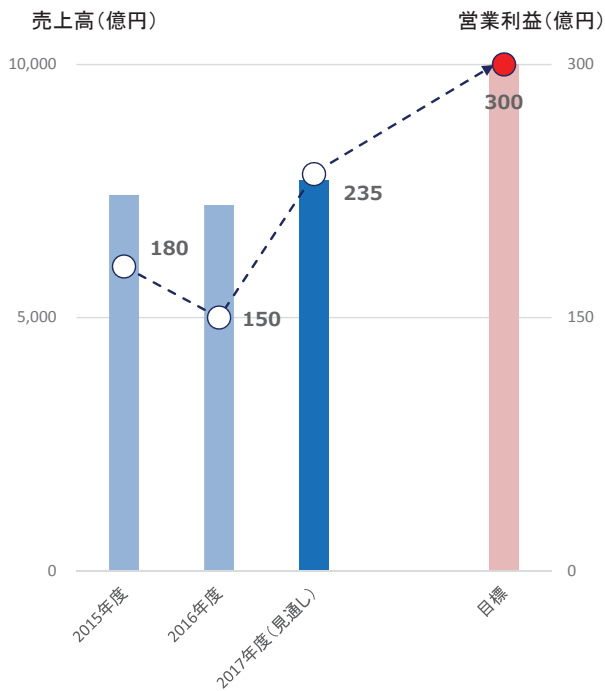
	KPIとの関連性		
	注力領域	グローバル	製造業
● <u>綿陽澄泓微電子材料有限公司の設立</u> 中国エレクトロニクス市場への薬液供給が好調	✓	✓	✓
● <u>Fitz Chem Corporationの株式取得</u> 米州スペシャリティケミカルのチャネル拡充	✓	✓	✓
● <u>東洋紡(株)と耐熱性PIフィルム製造販売会社の設立決定</u> フレキシブルディスプレイ事業の強化	✓	✓	✓
● <u>大泰化工(株)の株式取得</u> 川下塗料業界へ進出、研究・開発機能の拡充			✓
● <u>リヨン／イズミール拠点開設</u> 欧州、中近東エリアの市場拡大	✓	✓	

企業風土の変革

- 長瀬ビジネスエキスパート(株)発足 → 「効率化の追求」
- 新人事制度施行(2018年度より) → 「人財育成」

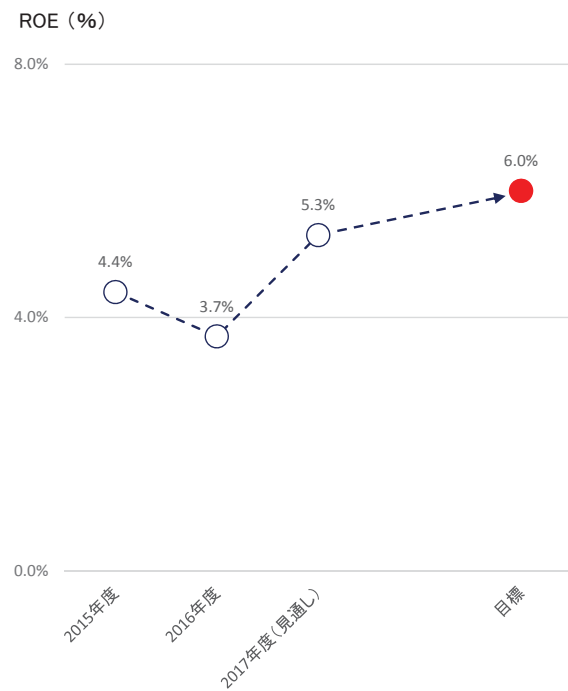
売上高/営業利益

1兆円/300億以上



ROE

6%以上

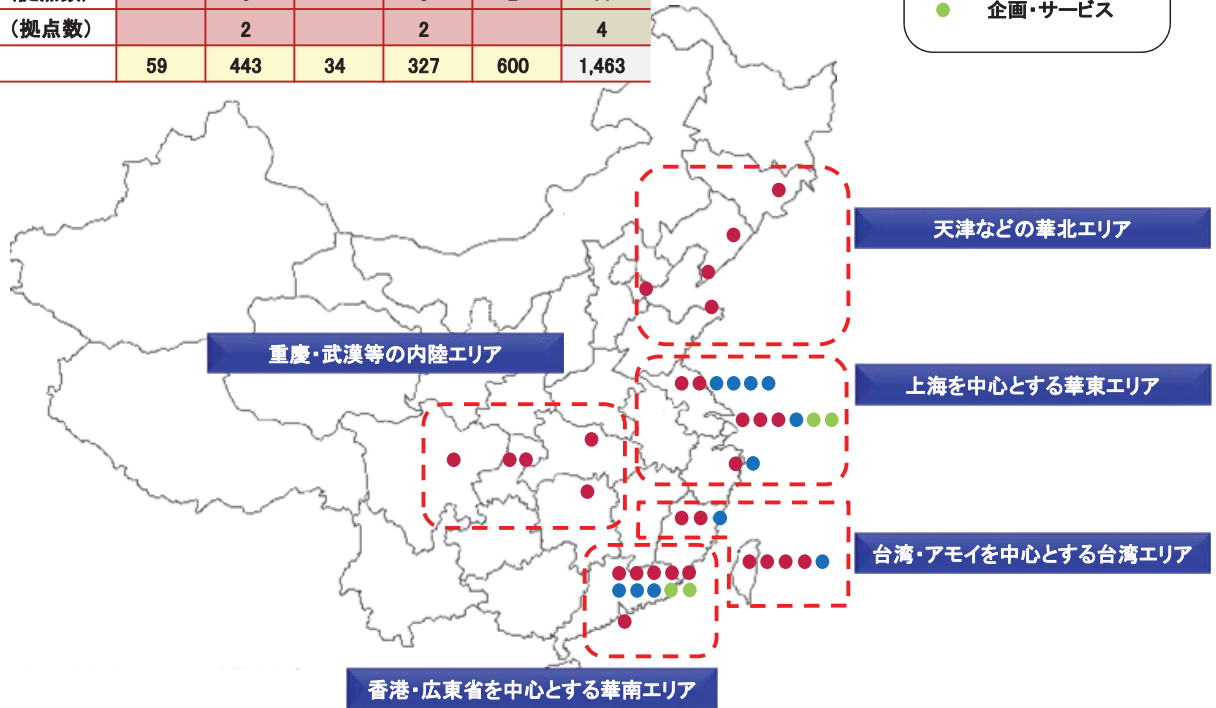


NAGASEグループの
グレートチャイナ
におけるビジネスについて

執行役員 Greater China CEO
山口 勝久

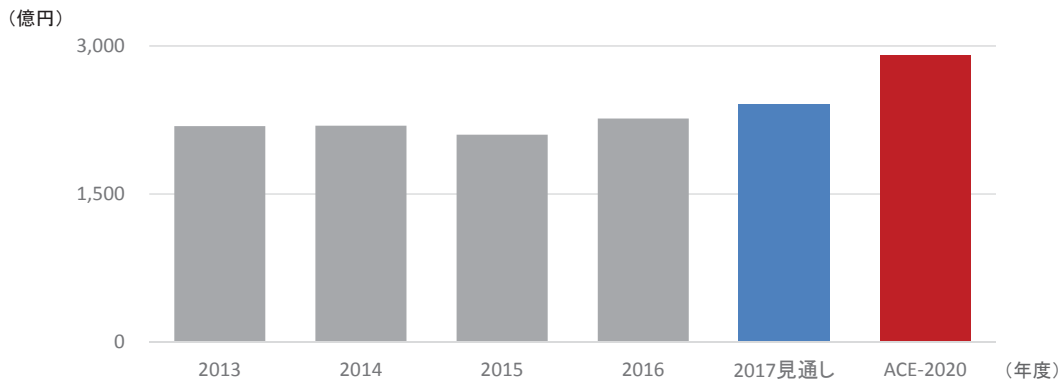
	華北	華東	内陸	華南	台湾	計
販売 (拠点数)	5	6	5	6	6	28
製造・加工 (拠点数)		6		3	2	11
企画・サービス (拠点数)		2		2		4
従業員数	59	443	34	327	600	1,463

- 販売
- 製造・加工
- 企画・サービス



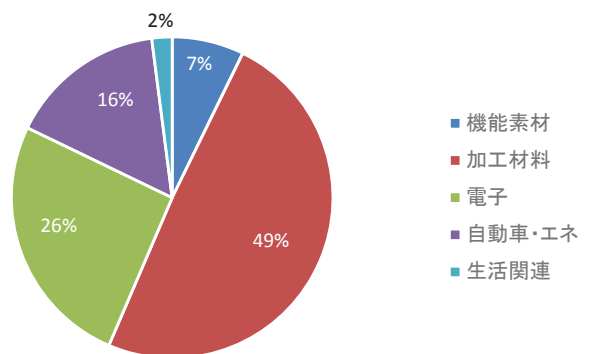
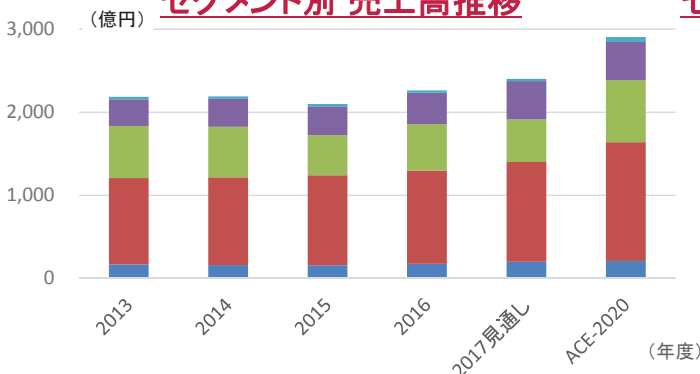
※ 拠点数には、分公司・事務所も含む
 ※ 従業員数は、連結子会社の従業員数を拠点別に集計

中期経営計画「ACE-2020」 目標売上高



セグメント別 売上高推移

セグメント別 売上構成比 (ACE-2020)



※ 売上高の単純合算値(所在地別)であり、決算公表の地域別(仕向地別)売上高とは異なります。
 ※ 比較を容易にするため、各年度の数値は、為替レートをすべて同一レートで換算しております。

事業：4つの注力領域（製造/加工機能強化・現地パートナーとの協業）・重要施策（地域特性のある中国発信Biz）の深耕を図る事による「ACE-2020」のKPI「G6000※」の達成
 管理体制：管理性公司 現地化を進めながら本社管理機能を担える体制の促進
 企業風土の変革：ナショナルスタッフの幹部登用や外部人材による多様性の拡大
 メリハリのある報酬体系の構築

注力領域

自動車	*重点開発分野： 非日系OEM開拓、カーエレクトロニクス、EV
半導体	*重点開発分野： 台湾、大陸 ウェハ基板、回路形成、再配線、パッケージング
ディスプレイ	*重点開発分野： フレキシブル(OLED)、液晶、カーマルチメディア
環境エネルギー・ ライフ&ヘルスケア	*重点開発分野： 環境エネ：PV、VOC対策(測定・回収・濃縮・燃焼・水酸化印刷インキ)、土壌改質 ライフ&ヘルスケア：林原の商材を軸に食品添加剤/素材

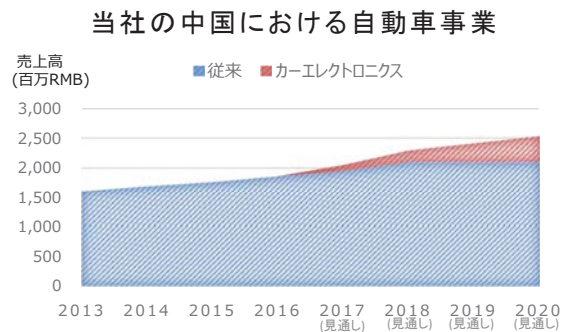
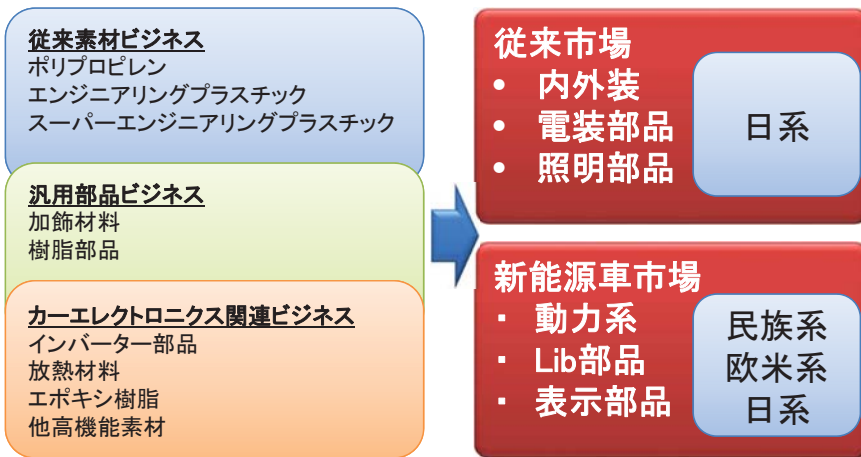
※G6000：中期経営計画「ACE-2020」のKPI（海外グループ会社売上高6,000億円）

Copyright © 2017 NAGASE & CO., LTD.

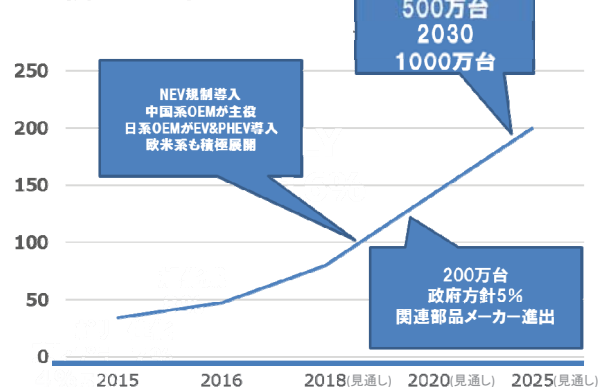
27

「ACE-2020」達成に向けた具体的施策 ～注力領域：自動車～

■成長する新能源车(XEV)へ高機能素材、精密樹脂部品



新エネ車予測



(出典：中国 第13次5ヵ年計画(2016～2020年))

- 樹脂ビジネス：エンジニアリングプラスチック、スーパーエンジニアリングプラスチック
販売増加 — 年間平均成長率+28%
- 高機能素材：放熱材料、絶縁材料、特殊接着材など
— ナガセケムテックス
- 新能源车：中国環境規制への対応 — 日本での実績を展開
- 生産体制：中国現地パートナーとの取り組み — グループ企業技術

「ACE-2020」達成に向けた具体的施策 ～注力領域:半導体～

■MIC2025に向けた、グループ製品の開発・製造機能強化

前工程



フォトリソ材料事業

- ・無錫澄泓微電子材料有限公司(無錫):フォトリソ材料の安定的生産
- ・綿陽澄泓微電子材料有限公司(成都)の確実な立上げ
(両社とも、主にLCD向け剥離液の生産)

中間工程



(写真はPac Tech GmbH)

装置事業

- ・デモセンター(台湾・上海)の活用
- ・SiChip社と協業による無電解メッキ事業の拡大



上海デモセンター

後工程



長瀬電子材料(無錫)有限公司

変性エポキシ樹脂事業

- ・R&D機能の強化
- ・実績のある半導体用液状封止材料の拡販



Pac Tech社とSiChip社の調印式

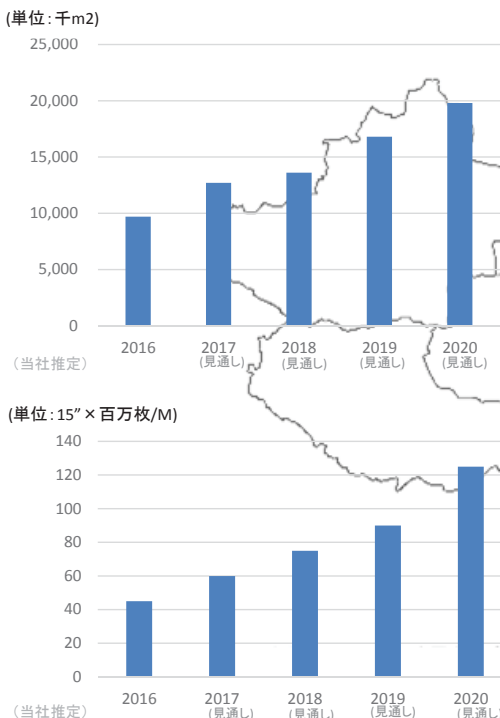
※MIC2025: Made In China 2025

Copyright © 2017 NAGASE & CO., LTD.

「ACE-2020」達成に向けた具体的施策 ～注力領域:ディスプレイ～

■今後中国で急拡大するOLED・液晶パネル生産工場に対しグループ製造/加工会社を中心にビジネスを展開

OLED・液晶パネル生産キャパ推移 (上段:小型、下段:大型)



グループ製造/加工会社



社名 : 綿陽澄泓微電子材料有限公司
 資本金 : 2,000万人民币
 出資 : 無錫澄泓微電子材料有限公 90%
 綿陽艾萨斯电子材料 10%
 事業 : 液晶、半導体向け薬液生産

社名 : 無錫澄泓微電子材料有限公司
 資本金 : 4,000万人民币
 出資 : NAGASEグループ 39%
 江陰澄星実業集団 61%
 事業 : 液晶、半導体向け薬液生産



社名 : 長瀬電子科技(厦門)有限公司
 資本金 : 2,100万US\$
 出資 : NAGASEグループ 100%
 事業 : 液晶ガラス基板の薄型化加工

Copyright © 2017 NAGASE & CO., LTD.

「ACE-2020」達成に向けた具体的施策 ～注力領域：環境エネルギー・ライフ＆ヘルスケア～

■環境 (VOC, 土壌, 水処理) 分野において健全なビジネススキームとビジネスモデルを完成させ、日系メーカーの機能材料や装置・システム、NAGASEグループ製品の実績化を図り、地域社会に貢献する。

★2016年1月1日 大気汚染防止法(修正)公布
⇒ 新たにVOC排出が規制・監視対象へ

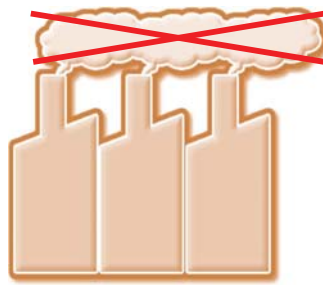
例) 上海市 塗料・インキ製造業向け地方標準制定

	国家	上海市
規定名称	大気汚染物総合排出基準	塗料・インキ及び関連品製造業大気汚染排出基準
標準(公布年)	GB16297(1996年)	DB31/881(2015)
ベンゼン	12	1
トルエン	40	10
キシレン	70	20

(単位: mg/m³)

(出典: 中国および上海市標準規格)

① VOC排出削減監視体制開始



② 印刷インキ溶剤 ⇒ 水系へ

① 排気処理

VOCオンライン測定機



VOC回収・液化装置



VOC濃縮 + 蓄熱式燃焼機

② 水系印刷インキ

軟包装水系印刷化に向けた優遇政策における水系印刷インキの提案

水系インクジェット印刷システムの導入によるVOCゼロ化の提案

印刷機洗浄排水の発生に対する排水処理設備の提案

(参考資料) セグメント別概況

＜所在地別売上高・営業利益＞

(億円)

	17/03期		18/03期				
	中間	通期	中間	前年同期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	714	1,468	785	110%	1,562	106%
	海外	211	451	275	130%	556	123%
	連結調整	▲185	▲384	▲213	-	▲417	-
	合計	741	1,535	847	114%	1,701	111%
営業利益	国内	15	33	19	130%	42	128%
	海外	4	9	7	189%	13	155%
	連結調整	▲0	▲0	▲0	-	▲3	-
	合計	18	41	26	143%	53	127%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん償却含む)

2018年3月期 第2四半期実績

売上高 847億円(114%)

◆機能化学品事業は、国内外における自動車生産台数の堅調な推移等により、塗料およびウレタン原料の売上が増加したことに加え、米スペシャリティケミカル・ディストリビューター「Fitz Chem Corp.」を買収し、新規連結したこと等により増収

◆スペシャリティケミカル事業は、半導体関連等の電子業界向けを中心としてフッ素ケミカル、エレクトロニクスケミカルおよび加工油剤原料等の売上が増加し、増収

営業利益 26億円(143%)

◆増収により、増益

2018年3月期 通期見通し

◇下期も引き続き、塗料・ウレタン原料の販売が好調に推移し、更に半導体関連等の電子業界を中心としたフッ素ケミカル等の販売が好調に推移し、通期で増収増益見通し

＜所在地別売上高・営業利益＞

(億円)

	17/03期		18/03期				
	中間	通期	中間	前年同期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	755	1,534	813	108%	1,643	107%
	海外	723	1,466	809	112%	1,615	110%
	連結調整	▲276	▲574	▲304	-	▲606	-
	合計	1,202	2,426	1,318	110%	2,652	109%
営業利益	国内	14	28	19	139%	38	136%
	海外	12	22	16	138%	33	150%
	連結調整	+0	+0	▲0	-	▲0	-
	合計	26	50	35	135%	72	141%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。

2018年3月期 第2四半期実績

売上高 1,318億円(110%)

◆カラー&プロセッシング事業は、国内において工業用および包装材料用合成樹脂、顔料・添加剤や情報印刷関連材料等の売上が増加し、海外においても印刷関連ビジネスの売上が好調に推移したことから、事業全体として増収

◆OA・ゲーム機器業界への合成樹脂の販売を中心とする事業は、国内は新規商権の獲得に加え、OA・電子業界向け樹脂販売等が好調に推移し、海外も新規サプライヤーとの取組み等もあり、全地域において増収となり、事業全体として増収

営業利益 35億円(135%)

◆増収に加え、製造子会社における収益増加等により、増益

2018年3月期 通期見通し

◇下期も引き続き、国内はOA・電子業界向け樹脂販売が好調に推移し、また海外も新規サプライヤーとの取組み等によりビジネスが拡大し、通期で増収増益見通し

<所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	17/03期		18/03期				
	中間	通期	中間	前年同期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	638	1,297	650	102%	1,229	95%
	海外	353	712	385	109%	716	101%
	連結調整	▲366	▲732	▲379	-	▲722	-
	合計	625	1,277	657	105%	1,224	96%
営業利益	国内	19	39	24	121%	48	122%
	海外	11	23	19	165%	35	148%
	連結調整	+0	▲0	▲0	-	▲0	-
	合計	31	63	43	137%	82	129%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん償却含む)

2018年3月期 第2四半期実績

売上高 657億円(105%)

- ◆電子化学品事業は、新規ビジネスの獲得等もありフトリソ材料や装置関連の売上が増加し、電機・電子業界向け等の変性エポキシ樹脂関連の売上也堅調に推移したことから、事業全体として増収
- ◆電子資材事業は、ディスプレイ関連部材の販売は増加したが、スマートフォンのモデルチェンジにより加工部材の売上が減少した為、事業全体として減収

営業利益 43億円(137%)

- ◆増収により、増益

2018年3月期 通期見通し

- ◇下期、フレキシブルディスプレイ向け商材の販売が増加し、また顧客稼働率向上や新規ビジネス獲得等によるフトリソ材料、更に中国でのガラス薄型加工事業が引き続き好調に推移するものの、一部の電子関連部材の販売が減少し、通期で減収見通し
- ◇製造事業の収益の増加等、プロダクトミックスの改善等により、増益見通し

自動車・エネルギーセグメント

<所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	17/03期		18/03期				
	中間	通期	中間	前年同期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	264	584	316	120%	673	115%
	海外	360	756	416	116%	849	112%
	連結調整	▲100	▲211	▲106	-	▲224	-
	合計	524	1,129	627	120%	1,299	115%
営業利益	国内	▲5	▲4	2	-	5	-
	海外	9	20	12	126%	24	123%
	連結調整	+0	▲0	▲0	-	▲0	-
	合計	5	15	14	277%	30	195%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。

2018年3月期 第2四半期実績

売上高 627億円(120%)

- ◆自動車材料事業は、自動車生産台数が堅調に推移したことに加え、自動車の電気・電子化に伴う需要を取り込み、エンジニアリングプラスチックの販売が好調に推移し、更にカーエレクトロニクス関連部材の販売が好調に推移したこと等により、事業全体として増収

営業利益 14億円(277%)

- ◆増収に加え、製造子会社における損益改善等もあり、増益

2018年3月期 通期見通し

- ◇下期も引き続き自動車生産台数が堅調に推移し、更に新規ビジネスの開始等もありエンジニアリングプラスチック等の販売が好調に推移し、通期で増収増益見通し

<所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	17/03期		18/03期				
	中間	通期	中間	前年 同期比	通期 見通し	前期比	
売上高	国内	497	1,018	497	100%	994	98%
	海外	52	115	64	124%	112	97%
	連結調整	▲137	▲284	▲140	-	▲277	-
合計	412	849	421	102%	829	98%	
営業利益	国内	33	62	36	109%	68	109%
	海外	0	1	1	943%	2	209%
	連結調整	▲15	▲30	▲15	-	▲30	-
合計	18	33	23	126%	40	120%	

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん及び技術資産償却含む)

2018年3月期 第2四半期実績

売上高 421億円(102%)

◆ライフ&ヘルスケア製品事業は、食品素材分野において、トレハ®等の売上が国内で横ばいとなったものの、欧州を中心とする海外では増加。スキンケア・トイレタリー分野では、AA2G®の海外での主要顧客に対する売上は減少したものの、国内での主要顧客に対する売上は増加。医療・医薬分野では、医薬品原料・中間体および医用材料の売上は横ばいだったが、製剤事業の売上が減少し、事業全体として売上は微増

◆ビューティケア製品事業は、全般的に販売が低調であったことから、事業全体として減収

営業利益 23億円(126%)

◆増収により、増益

2018年3月期 通期見通し

◇下期、トレハ®が上期比並で推移し、ファイバリクサ™や林原ヘスペリジン®s等の高機能素材商品の売上が増加するものの、医療・医療分野における医薬品原料・中間体等の販売が減少し、通期で減収見通し

◇プロダクトミックスの改善等により、増益見通し